

PMX-DHP の至適導入タイミングの検討に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年11月25日 ～ 2024年3月31日

〔研究課題〕

PMX-DHP の至適導入タイミングの検討：多施設後ろ向き研究

PolyMyXin-B direct hemoperfusion OPTimal Initiation timing with Catecholamine study、PMX-OPTIC study

〔研究目的〕

PMX-DHP (ポリミキシン B 固定化繊維カラム直接血液還流法)は重症の敗血症性ショックに使用されていますが、明確なエビデンスがないのが現状です。PMX-DHP の生命予後改善への効果は、適切なタイミングで使用することによって得られるのではないかと考えられます。本研究では、全国の病院(現在 31 施設)と協力して、PMX-DHP の敗血症性ショックに対する治療効果について調査、解析して予後との関係を調べるものです。

〔研究意義〕

これにより PMX-DHP を開始する最適なタイミングを検討することを目的としております。

〔対象・研究方法〕

2012年1月1日から2021年12月31日までに帝京大学医学部附属溝口病院に入院した方のうち、敗血症性ショックに対して PMX-DHP という治療を受けた方を対象としております。全国の多くの病院にも参加を募り、データを帝京大学医学部救急医学講座に収集し、PMX-DHP の敗血症性ショックに対する効果の解明、適切な開始のタイミングなどを解析します。この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、血圧値、脈拍値、治療薬、血液検査データ(肝機能、凝固系指標等)

〔研究機関名〕

研究代表者：日立総合病院 救急集中治療科 医長 高橋雄治

帝京大学医学部附属溝口病院、旭川医科大学病院、信州大学医学部附属病院、京都第一赤十字病院

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。研究終了後データは帝京大学臨床研究センターで10年保管されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究分担者：氏名 河原崎宏雄 職名 准教授
所属：帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科
住所：神奈川県川崎市高津区二子5丁目1-1 TEL:044-844-3333